

協議内容

「第4次柏市生涯学習推進計画の総括に向けて」

【A班】

きっかけづくりが大切。

高齢者は階段等の設備面で学習施設に入りづらいことがある。障害を持つ方はそれぞれ必要なサポートがあり、学習施設としてハード面で設備、ソフト面で障害に対する理解が必要だが、上手く対応できていない。

市民の学びのニーズに、行政が出している情報がマッチングされないことが多く起こっている。行政は全ての人に対応しようとし、切実なニーズには応えられていない。世論調査において学習をしていない理由で「特に必要がない」と回答した人の割合増加は、切実なニーズを持つ人と行政の生涯学習施策にずれがあるかもしれない。

子どもにもわかるような学習機会の提供、また、子ども自身が面白い、勉強したいと思える情報にするべきである。

行政は、学びで得たことを市民から広げてもらえると良いと考えるかもしれないが、むしろ市民が主体となって考えるべきである。市民のニーズをきちんと拾っていれば、自然と市民が動き出すため、行政が現計画の「ひろく伝えたい」に向けて動くことではない。

オンライン学習が増えてきているが、コミュニケーションを十分にとれていない。対面学習の重要性が伺える。情報提供の方法とともに考えなくてはならない。

I C Tでの情報提供は大事だが、情報が溢れていて、尖っていない市の情報は流されてしまう。尖った内容は行政以外の民間や大学などに任せて連携する。こうした主体が実施できないこと、例えば包摂的な内容や全ての人に必要なものこそ、行政が実施すべきであり、こうした住み分けで、総合的に生涯学習を進めていく。

【B班】

現計画のあらゆる取組方針に対して意見が出た。

情報提供に関して、子どもに情報を届けたいが親で止まってしまう。行政の情報は、民間や他団体と連携していない。

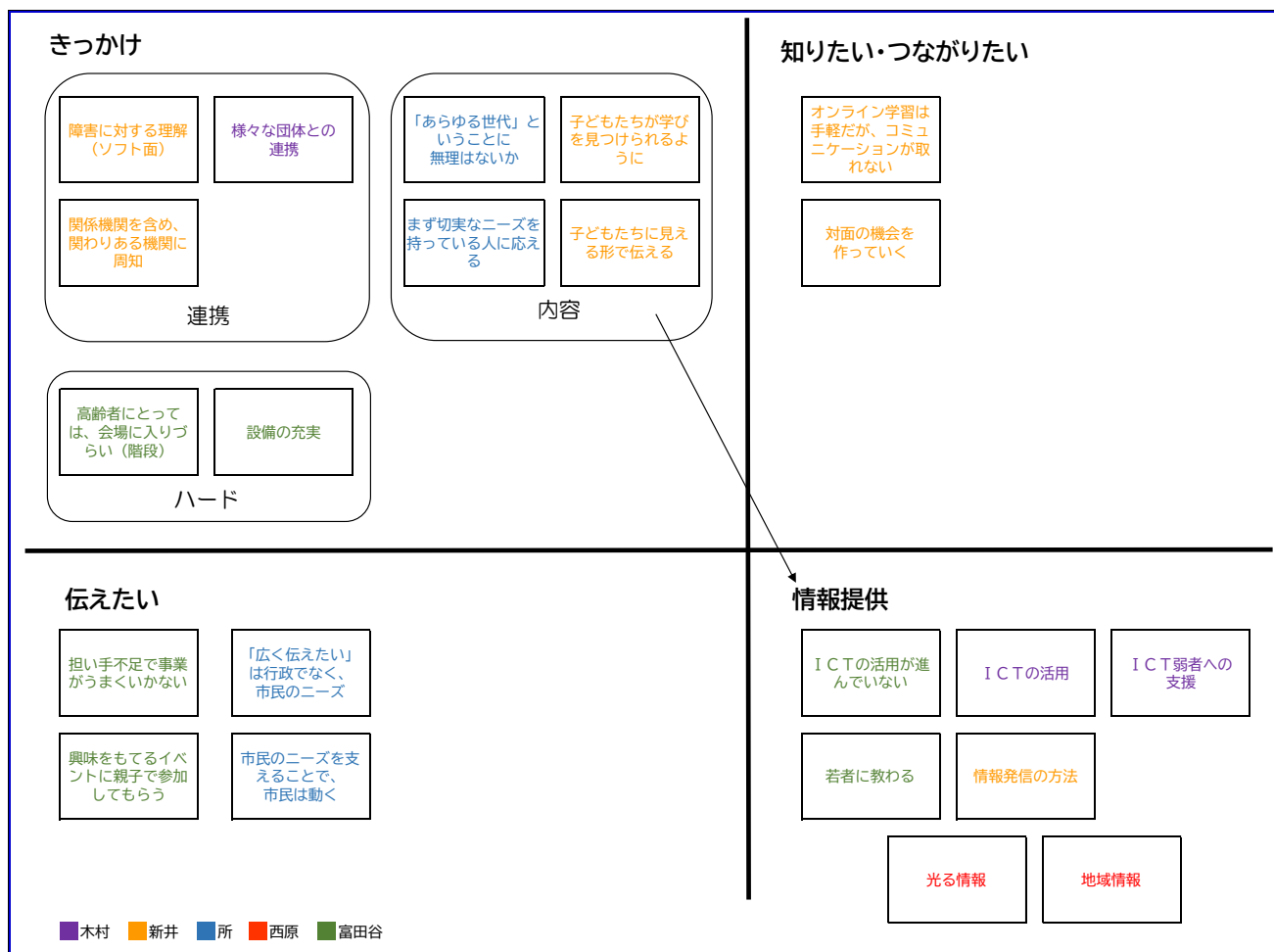
情報を目にしても一歩踏み込めない人（ひきこもり等）のために、参加を後押しする人、一緒に歩く人の存在が必要ではないか。特に若い人におせっかいできる人が少ない。

学校では体験を提供しているが、地域の中でもいろいろな人が体験できることが大切である。楽しい、面白そうだから行ってみよう、気づいたら学びになっていた、という機会が必要なのではないか。

学びというワードでは、皆学んでいる自覚がないため、中々引っかからない。それよりも、学びの枠にとらわれず、人に出会って学び合って成長していくことが学びだということを、広く知ってもらう必要がある。

参考：グループワークの結果

【A 班】



【B 班】

